

平成20年度博物館施設評価シート

施設名	埼玉県立自然の博物館	評価基準		
資料の収集・保管	自然の博物館と川の博物館のスケールメリットを生かした資料の収蔵を考慮し、有効利用を進めるために一次資料と二次資料の整理を行う。	十分	目標値+10%以上	5点
		達成	目標値+5%以上	4点
		ほぼ達成	目標値±5%未満	3点
		やや不十分	目標値-5%以下	2点
		不十分	目標値-10%以下	1点

視点	項目	指標	目標値	評価	特記事項
			達成値		
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	2,000 点	1	前年度実績 点数は標本化、名前づけ、ラベル添付が終了し、登録資料として登録番号がつけられたもの。登録前段階の資料整理は約1,000点終了。
			851 点		
	館主催事業等での利用状況	2 資料の活用	3,500 点	5	館内での活用 3,300点 館外での活用 200点 館内での活用 3,493点 企画展「多様な埼玉の生きもの」など 館外での活用 626点 共催展（熊谷図書館で開催）など
			4,119 点		
	外部からの要請等による利用状況	3 館蔵資料貸出	4 件	5	前年度実績の30%増 貸出資料点数としては計650点
6 件					
4 写真原板利用		4 点	5	前年度の30%増。内容は「特別利用」とする 件数は6件	
	26 点				
5 データベースの利用状況	- 件	5	GBIF（地球規模生物多様性情報機構：国立科学博物館担当）に11,500件のデータを提供。平成21年度中にはGBIFのデータベースで公開される予定。また、デジタルアーカイブへのデータ提供やふるさと埼玉ものしり事典でのデータ公開を実施。		
	- 件				
サービスの水準	常設展示	6 総合的な満足度（「満足」の割合）	75 %	3	全館共通 長瀨の地質、セイウチやチブクジラ等秩父盆地産化石の追加。アンケート総数757件、内満足560件。
			74 %		
	企画展示	7 総合的な満足度（「満足」の割合）	80 %	1	全館共通 企画展「多様な埼玉の生きもの」「入間川の自然」などを開催。アンケート総数748件、内満足526件。
			70 %		
生涯学習支援	8 普及事業の総合的な満足度（「満足」の割合）	85 %	5	全館共通 アンケート総数184件、内満足173件。	
		94 %			
利用状況	入館者	9 年間の総入館者数	72,000 人	2	実績評価目標値 これまで1月に実施していた館内整理を9月に実施。その休館により前年比約4000人減。昨年度は2月のリニューアルオープンで今年度より約2700人増。入館者数には含まれないが、熊谷市立熊谷図書館と共催で「自然科学展～さいたまに生きる動物たち～」（7/19～8/31）を開催、見学者数5,366名。
			64,871 人		
	企画展示	10 企画展示の総観覧者数	- 人	2	常設展示の観覧者が自由に観覧できるので設定は困難
			- 人		
	生涯学習支援	11 普及事業への参加率	85 %	3	全館共通 定員のある事業：科学教室14、野外観察会5回、利用講座1回。参加者数646人÷定員781人＝83%
83 %					
12 レファレンス	710 件	2	前年度実績の5%増 来館397件、電話201件、メール36件、その他13件		
	647 件				
広報	ホームページ	13 インターネットでの情報利用	70,000 件	5	ホームページアクセス件数実績評価目標値 更新数 4月～12月44件、12月～3月92件。12月より公開システムを変更し新たなホームページを公開。12月以降情報提供数が増加。システム変更にもないアクセス数の把握が正確になった。
			199,035 件		

学校支援	学校利用受入	14	学校教育活動における利用数	150校	5	実績評価目標値
				197校		学校行事として143校、授業等54校。
	児童生徒利用	15	児童生徒の参加者数(学校週5日制対応事業を含む)	2,050人	5	前年度実績
3,330人				学校対応 2,949人。土曜日対応事業 381人(科学体験教室6回161名、科学体験工房7回220人)		
学校連携	16	学校への職員派遣・資料貸出・連携事業	38件	5	ゲストとしての職員派遣数 20件 教育普及資料等貸出数 12件 連携事業等の取り組み 6件	
			63件		ゲストとしての職員派遣数 43件(休館日も含め積極的に受入を行った) 教育普及資料等貸出数 12件 連携事業等の取り組み 8件	
ボランティア	17	ボランティアの活動	260人	5	前年度実績	
			292人		ボランティア15人、外部研究者4人。ボランティア延べ参加人数223人：事業補助19人、調査・資料事業補助111人、資料整理補助90人、その他3人。展示解説ボランティアは実施していない。外部研究員延べ活動人数69人。	
調査研究	18	研究成果の公開状況	2.4件	5	前年度1人あたり件数。ただし、昨年度は埼玉新聞への連載記事があったので、その部分を除いた。	
			3.1件		52件÷17人=3.1。「埼玉の動・植物50話(自然の博物館編、埼玉新聞社)」、「やさしいみんなのチヂブ学[自然編](自然の博物館監修、埼玉出版会)」は計2件とした。	
その他	19	開放施設の活用度	49%	5	前年度実績	
			55%		開館日数316日、イベントやその準備、展示準備等で同じ施設を使用するため、施設使用可能日は181日。施設活用実績99日(講堂32日、会議室4日、科学教室13日)。	
効率的経営	20	博物館の自立度(観覧料および事業等収入)	5,300,000円	3	20年度予算計上額	
			5,521,300円		年間観覧券の販売201件により収入増があった。	
各館別項目	21	社会教育施設や団体等への支援・連携	18件	5	前年度実績の10%増 職員派遣 15件 連携事業 3件	
			48件		職員派遣 41件(土日も含め積極的に受入を行った) 連携事業 7件	
	22	国・県機関への対応	20件	5	対応数に変化があるので、過去3年間の平均	
28件	県土整備事務所「希少植物の保護・移植」、保健所「有毒植物やキノコの同定・対応」などに対する指導、助言など					
研究成果の公開	23	職員の能動的な行動	70%	1	研究発表会での発表数(学芸職員+外部研究者)の70%	
			50%		職員17名+外部研究員3名(4名の内1名は年末に登録のため除外)。10名発表。上記の70%の発表者数の設定は、発表時間等からみて物理的に困難な面があった。	
総合評価				合計評価点	達成度(合計評価点÷測定値設定数)	
				81点	96% 0.96点(81点÷(21項目×4点))	

評価	多くの項目で前年を上回るか、同レベルである。特に「サービスの水準 常設展示」が昨年度は約60%と課題であったが、常設展示への展示物の充実等により74%となり、目標値を「ほぼ達成」することができた。一方、「企画展示」の満足度は70%で課題が残った。また、「館有資料の充実」と「年間の総入館者数」では目標値に達しなかった。館有資料は入力機器の不調による影響があったため、問題が解決され登録可能となったので解決できる問題である。入館者は減であったが、年間観覧券の購入による収入増があり博物館の自立度では目標値を達成した。
	入館者数の増加と企画展示の満足度の向上が最も大きな課題である。入館者数の増加と企画展示の満足度には関連があると考えられる。県民のニーズにあったさまざまな展示を企画し、魅力ある展示活動を展開する必要がある。これが、入館者増にも繋がってくると考えられる。企画展の満足度は、独立した企画展示室ではないため常設展示との区別が曖昧であることが要因の一つと考えられるが、企画展の展示方法や案内を工夫する必要がある。
対応の方向	博物館の認知を向上するために、マスメディアや種々の媒体、学校、地域社会などへの積極的なPRを行い、広報活動を強化する。特に、情報提供の強化やミニコミ紙との連携などを図っていく。また、県民のニーズを把握し、多様な展示や事業を展開し、魅力的な博物館活動を行う。

基礎データ

職員数(学芸員数)	20人(15人)	総予算額(人件費を除く)	10,120千円	職員1人あたりの県民人口	35.6万人
収蔵資料点数	142,728点	事業経費(上記の内数)	3,238千円	利用者1人あたりのコスト(平成19年度)	139円
平成19年度収蔵資料点数	1,906点	特定財源予算額(うち観覧料収入)	5,402千円(5,300千円)	県民人口に対する利用者の割合(平成19年度)	1.03%

(注)平成20年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,116,183人である。

博物館協議会の意見とその対応

全館共通の意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
評価項目全体に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値の設定根拠を各館で統一すべき ・目標値の設定根拠を特記事項に記載すべき ・自己評価結果について協議会で再評価すべき ・総合評価の達成度は%表記にすべき ・評価シートに基づく評価、課題、対応の方向の表記は整合性のあるもので、県民にわかりやすいものとするべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・21年度評価シートで改善 ・21年度評価シートで改善 ・21年度評価シートで改善 ・20年度評価シートから改善 ・21年度評価シートから改善
個別項目に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「館有資料の充実」の数値目標は数量だけでなく質も重要なので協議会に評価を委ねてはどうか ・「写真原板利用」を「資料特別利用」に変更し、資料撮影点数、資料熟覧点数も加えてはどうか ・「データベースの利用状況」が毎年「構築中」というのは如何なものか、「外部からの要請等による利用条項」の項目から分離し、実情に合わせた数値が記入出来るように工夫したらどうか ・「総合的な満足度」ではアンケートの回収件数を増やす必要がある。また、アンケートの取り方も工夫が必要である ・「年間の総入館者数」は「一日平均入館者数」に変更すべきである ・「ホームページ」の項目を「広報」に変更し、指標にマスコミ等への情報発信件数等を目標値とした「広報」を新たに加えてはどうか ・「ボランティアの活動」の特記事項には活動日数や活動内容を明記すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・21年度評価シートから運用 ・21年度評価シートから改善 ・21年度評価シートから改善 ・戦略的広報ワーキンググループで検討のうえ実施 ・21年度評価シートから改善 ・21年度評価シートから改善 ・20年度評価シートから改善
委員会評価意見の公開について	<ul style="list-style-type: none"> ・評価する点や問題点をまとめ、委員会評価としてHP上で県民等に公開すべきである 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館評価ワーキンググループで検討の上実施

個別館への意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
1 館有資料の充実	登録前整理段階の点数も数えて良いのではないかな。	評価で提示している「館有資料の充実」の点数は、それが登録点数と一致しているものである。登録前整理段階の資料も点数に加えると、登録資料点数と異なる数を表示することになる。特記事項に登録前の整理資料がある場合には、その点数を表示することで対応したい。
7 企画展示	企画展のアンケートは別に取っているのか、あるいは、一緒なのか。	アンケートは昨年度から一つにまとめた。期間を定めた展示を行っているので、アンケートを工夫するなどして今後も満足度の把握は行いたい。
7 企画展示	同じ「企画展」の名称でも、予算の裏付けの有無や実施会場などで同列に比較はできないのではないかな。	企画展に関しては当館だけに関わることでないので、ワーキンググループで対応を検討する。
23 職員の能動的な行動	研究成果の公開を削除するとのことだったが、評価項目に残っているが。	削除する評価項目は「23 職員の能動的な行動」の項目である。この項目は「18 研究成果の公開」と内容的に重複する面があるので、18の項目に含ませることで対応したい。